



序

说不尽道不完的是当今这太平盛世，国泰民安，民风淳朴，连树荫下、草丛中鸟儿、虫子的叫声都仿佛是在恪守本分、各司其职。再没有比这更让人高兴的事情了。尤其是大道得行天下，政通人和，五谷丰登，这是至今哪个朝代都无法比拟的。

在如此盛世之中，连我这样的人都得享太平，长年埋头于学问。在纵览日本、中国的书籍，聆听圣人的教诲之余，选出散布于山城国、京都各处的名胜三百余处，并把神社佛寺的由来、相关人物的来历等等加以考证，还专门找来在这些名胜吟诵的和歌，结成一集，定名为《洛阳名所集》，共十二卷。希望后世之人能够指正这本书的谬误，也算得上是我隔世的友人了。

万治元年戊戌八月日

(張 凌志 訳)

【現代語訳】

尊んでも尊び足りないほどすばらしいことは、今の御治世が平穩で、人々の心が素直であって、木陰や草むらにいる鳥の声や虫の音までもが各々の本分をはっきりと表していますことが限りない喜びの初めです。特に道理が広まり、政治が立派に行われて、五穀が豊穰でありますのは、これまでのどんな御治世にもなかったことです。

ですから、私のような者でさえも平穩な暮らしができますので、長年学問に励み、我が国の文章や中国の文献に親しみ、聖人の教えを読んでいましたところ、ふと思いついて山城国内や京都のあちこちの名所約三百余りを選び、あるいは神社や仏寺の来歴、人物の由来などの伝承を考証し、しかもその場所で詠まれた歴代の歌まで探し求め、記して、『洛陽名所集』と名付けて、十二巻の書としました。願いますことには、後世の人がこの書の誤りを正してくれるなら、たとえ年月が経過していようとも、私を助けてくれる友人と言うべきでしょう。

万治元年戊戌八月日

(藤原英城)